

# アイヌ政策推進交付金を活用したまちづくり事業

町は令和元年度に「白老町アイヌ施策推進地域計画」を策定。国からの認定を受け、従来の文化振興、福祉施策に加え、地域や産業、観光の振興を含めた多様な事業にアイヌ政策推進交付金を活用したまちづくりを進めています。

## 令和4年度の活用実施事業

< >は事業費

### 【文化振興事業】

- 伝統的なアイヌ文化・生活の場（イオル）再生 <22,618千円>
- アイヌ文化継承人材（伝統手工芸の担い手など）の育成 <9,506千円>
- 小中学校におけるアイヌ文化体験やふるさと給食の提供 <1,740千円>



### 【地域・産業振興事業】

- ウポポイや地域のアイヌ文化をPRする観光プロモーションとアイヌ文化を活用した商品開発 <19,118千円>
- ポロトミンタラにおけるウポポイや地域のアイヌ文化と観光資源をPRするおもてなしイベント <5,000千円>
- 町立病院におけるウポポイ来訪者などの急病人対応のための体制整備 <40,233千円>
- ウポポイなどのアイヌ関連施設や町内主要スポットをつなぐ地域公共交通（元気号・カムイ号・ぐるぼん）の運行 <86,502千円>
- JR利用者の利便性確保のための駅臨時改札の設置 <3,757千円>



### 【コミュニティ活動支援事業】

- 伝承活動などを実施可能とする多機能型「白老生活館」への改築（実施設計、現白老生活館の解体工事） <32,521千円>
- 小中学生学力向上のための学習支援員の各校配置 <11,418千円>

問い合わせ先：政策推進課 アイヌ政策推進室 ☎82-7739

## ポニアヨロの地で先祖供養

白老アイヌ協会主催の「アイ・オロ・オ・コタン先祖供養」が7月9日、虎杖浜のポニアヨロ海岸で執り行われ、カムイノミ（神への祈り）やシンヌラップ（先祖供養）という伝統儀式を通し先祖をしのびました。

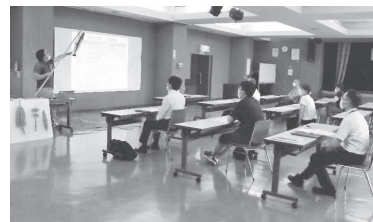
関係者ら約50人が参加。山丸和幸理事長がアイヌ文化が栄えた同地の歴史を振り返りあいさつしました。新井田幹夫さんを祭司にカムイノミが行われ、続くシンヌラップでは、参加者が一人ひとり祭壇に供物をささげ先祖の霊に祈っていました。苫小牧アイヌ文化保存会と白老民族芸能保存会による古式舞踊も披露されました。（広報編集室）



### 知っておこう アイヌ文化

## 「子ども達に伝えたいアイヌ文化」講座

イランカラフテ。チキサニでは毎年8月に「子ども達に伝えたいアイヌ文化」講座を開催しています。講座名を聞くと、子ども対象のアイヌ文化講座かな？と思われるかもしれませんが、対象は町内をはじめ、胆振管内の小・中学校の教職員です。通称「教職員研修」と呼ばれるこの講座は、アイヌ民族の歴史や文化などについて、まず教職員に正しい理解を深めてもらい、子どもたちへの指導法を考察してもらう狙いがあります。そして、子どもたちがアイヌ民族の歴史や文化を正しく理解することで、自他の違いを認め、相手を受け入れる心や態度と郷土への誇り、愛着を育むことが目標です。そのためには、チキサニの「イオル体験交流事業」や白老町教育委員会の「アイヌ文化を学ぶふるさと体験学習」の古式舞踊や刺しゅう、木彫など、各種体験を通して、子どもたちが「楽しかった」という感想のみで終わってしまうのではなく、その後の探求的な活動につなげる必要があります。昨年度の教職員研修ではこのことに着目し、アイヌ文化学習モデルを考察する座学と、学習単元とのつながりを意識した授業への導入と指導法を探る各種体験を行い、昨年10月に開催した川のイオル「川漁体験」では、白老小学校の4年生児童が事前学習を取り入れるなど、より効果的なアイヌ文化学習に向けての取り組みが実現しました。今年も8月2日(火)と3日(水)に教職員研修を開催します。



昨年度の教職員研修で、「カムイ」とは何か？について学ぶ教職員

政策推進課 アイヌ政策推進室 学芸員 森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301